



地域おこし協力隊通信 2026.6月号

こんにちは！2026年4月より地域おこし協力隊として高島地区に着任いたしました、安藤伊織（あんどういおり）と申します。東京出身の23歳です。

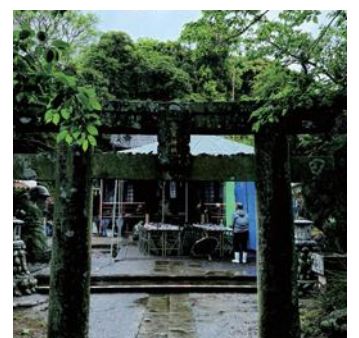
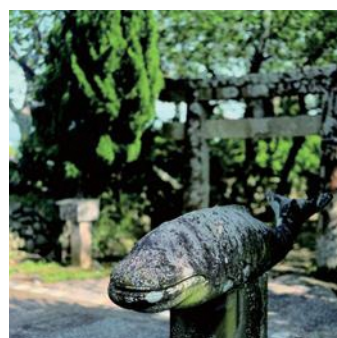
専門学校卒業後はデザイン関係の仕事や図書館の司書として働いていました。一見異なる職種ですが、「情報を整理して、誰かにその魅力を届ける」という点では共通しており、人と関わりながら新しい発見をお手伝いすることにやりがいを感じてきました。



高島との出会いは、両親が佐世保に移住したことがきっかけです。遊びに来る中で、父が仕事で関わっていたESPOのウォールペイント事業やアートプロジェクトに触れ、島全体が持つ豊かな自然に一気に引き込まれました。活動では、SNSでの魅力発信を主軸に行っていきます。単に外から見た景色を載せるだけでなく、島に暮らす皆様から見た「島の本当の良さ」をたくさんお聞きし、それをデザインや言葉の力で外の世界へ丁寧に伝えていきたいと考えています。

私自身、生き物や自然を眺めることが大好きで、新しい知識に出会うとワクワクする性格です。読書や映画も好きなので、ぜひ皆様のおすすめも教えてください。まずは一日も早く方言を覚えて、皆様と円滑にお話ができるようになりたいです。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします！

4月の撮影履歴





九十九島の一つ、長崎県佐世保市の「高島」。地図では小さく見えますが、一步踏み入ると想像以上の豊かさが広がっています。どこまでも続く海や深い森、くると変わると変わる景色。砂浜で波音を聞きながら猫とお昼寝するような、この島ならではのゆったりとしたリズムが流れています。時間がゆっくりと溶けていくような贅沢なひととき。つい立ち止まって深呼吸したくなる、そんな高島の魅力を肌で感じながら大切に過ごしています。

高島の春祭り「おこもり」が近づいてきました（4月撮影）。4月26日に志賀神社で行われるこの行事は、海の恵みに感謝し、豊漁や地域の安全を願う大切な一日です。境内に佇むクジラの石像や古い鳥居を見ていると、かつて島を救ったクジラを「神様の贈り物」として大切にしてきた人々の想いや、深い歴史が今も息づいていることを実感します。こうした島の素敵な物語を一つひとつ大切に学び、共有していきたいです。

4月26日、志賀神社の春祭り「おこもり」が行われました。貴重な「平戸神楽」を拝見し、真剣を使う演武の迫力には思わず息を呑むほど。神様のお米を分け合う「八散供米」では、目を輝かせる子供たちと一緒に私も参加させていただきました。島独特の参拝作法を教わりながら手を合わせると、少しか島の仲間に近づけたような温かい気持ちに。伝統が息づく高島の魅力を肌で感じた、忘れられない一日となりました。



@TAKASHIMA_KYORYOKUTAI

編集後記

こちらのアカウントで日々の発見をリアルタイムで投稿しています！

もし良ければフォローの方お願い致します！

SNSは見られないという方も、見ていただけるよう毎月紙媒体で見れるように印刷したものを島に置かせていただくので、そちらをご覧ください！